

いちはら福祉ネットの は 一 と 通 信

2010. 12. 20発行

VOL.17

発行者 中核地域生活支援センター いちはら福祉ネット(千葉県委託事業)
〒290-0054 千葉県市原市五井中央東2-14-13 篠原ビル104号
TEL 0436-23-5300 FAX 0436-23-5225
ホームページ http://park22.wakwak.com/~ichihara_f.net/
メールアドレス ichihara_f.net@bh.wakwak.com

年3回発行(4,000部)



中核地域生活支援センター連絡協議会 2010年度シンポジウム

平成22年11月30日(火) 千葉県文化会館小ホール

千葉県中核地域生活支援センター連絡協議会は、中核地域生活支援センター(以下、中核センター)の活動についての周知を図るとともに役割についての議論を行うことを目的として、シンポジウムを開催しました。丸6年を経過した中核センター事業の活動の実際を報告し、担っている役割について整理を行い関係者との共有を図ろうというものです。

まず基調講演「この国の貧困と子どもたちの未来」では、長年、児童相談所の業務に携わってこられ、現在「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワークの共同代表や千葉明德短大講師をされている山野良一氏から、日本の社会の様々なひずみが「子どもの貧困」に現れている現状をお話いただきました。

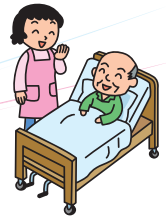
「日本の子どもの7人に1人が貧困である」こう言われて皆さんはどうお思いになりますか?発展途上国のように餓死する「絶対的貧困」の子どもは少ないかもしれませんが、しかし、教育費・一人親家庭の収入の低さと過重労働・孤立・子どもを支える地域の連帯の欠如など様々な問題が集約され、衣食住の不十分さや一般的な社会経験ができないという「相対的貧困」に置かれた子どもがこれだけいるのが、今の日本の現実なのです。子どもの権利を保障し、政策として対応していくことが求められています。そして、支援者は生活の中に深く関わっていくことが大切だと力強く話されました。

その後のシンポジウム「市町村福祉の中での中核センターの機能と役割」では、多問題家庭への支援に焦点を当て、県内の行政・社協の立場から中核センターとの連携事例や事業への提言がされ、中核センター側からも事例を挙げ活動の実態を発表しました。前出の山野氏からは「福祉分野でも縦割りが進んでしまった中、中核センターの意義は専門機関を繋いでいくことや既存の専門機関からこぼれ落ちている人に対応していくことではないか」とのコメントがされ、同時に市町村レベルでの専門性の強化にも言及されました。

社会情勢も制度も変化していく中、中核センターの使命を、しっかりと根を張って全うしたいと強く感じています。



より良い福祉サービスへ -1-



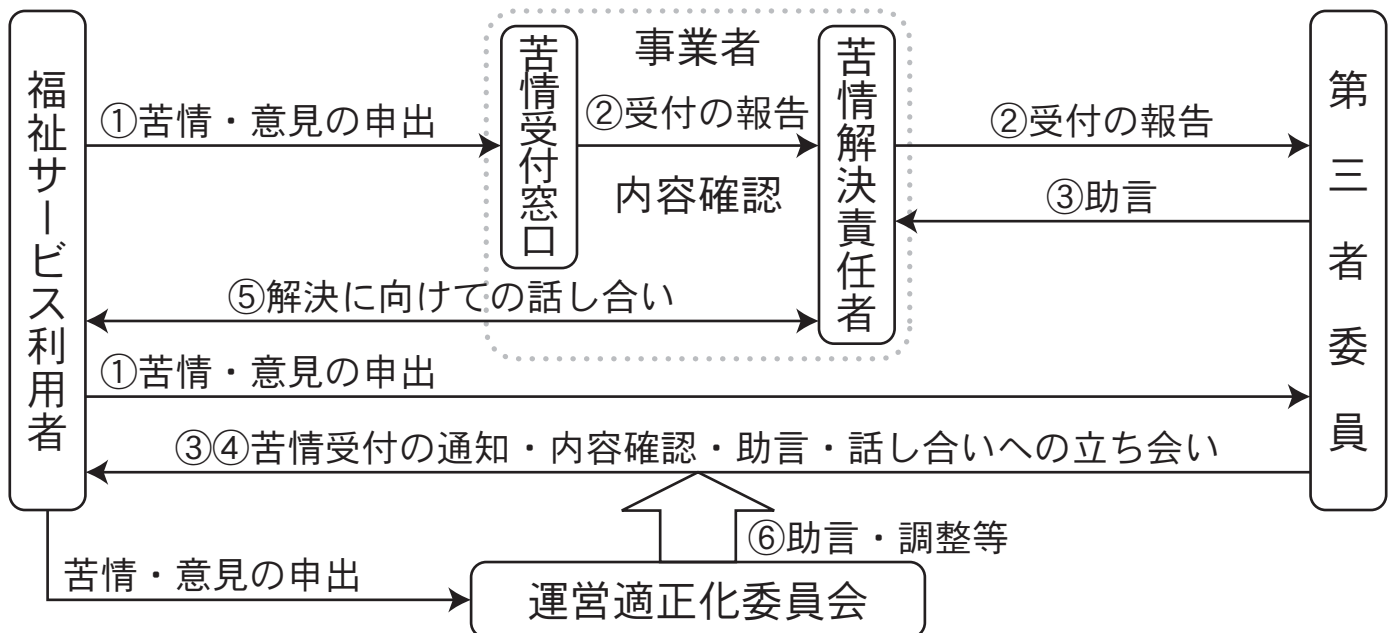
社会福祉法第82条の規定により、社会福祉事業の経営者は利用者等からの苦情に対し適切な解決に努めなければならないものとされています。福祉サービスを利用のみなさん、『苦情解決窓口』を利用したことがありますか？ 上手に活用できていますか？

苦情解決の仕組みの目的

- ◎苦情への適切な対応により、利用者の満足感を高めることや早急な虐待防止対策が講じられ、利用者個人の権利を擁護するとともに、福祉サービスを適切に利用できるように支援する。
- ◎苦情を密室化せず、社会性や客観性を確保し、一定のルールに沿った方法で解決を進めることにより、円滑・円満な解決の促進や事業者の信頼や適正性の確保を図る。

苦情解決の流れ ※下記、概要図参照

- ①各事業者には設置されている苦情受付窓口、または第三者委員へ面接、電話、FAX等で申出ることができます。利用者、利用者家族、当該福祉サービスの提供に関して状況を具体的に把握している者が申出ることができます。
- ②苦情・意見を受けた担当者は、申出内容、希望等を確認し、苦情解決責任者、第三者委員へ受付内容を報告します。
- ③④報告を受けた第三者委員は申出人に苦情・意見を受けたことを通知し、内容確認、助言等を行いません。(申出人が第三者委員への報告を明確に拒否した場合は除く)
- ⑤申出人と苦情解決責任者で話し合いによる解決を図ります。必要に応じ、第三者委員の立ち会いを要請し、助言を求めることができます。
- ⑥話し合いにて解決が図れない場合には、運営適正化委員会へ助言、調査等を求めることができます。



“苦情” とつくとは何か言いづらい…。そんな方も多いと思います。苦情解決の仕組みは、利用者にも事業者にも、より良いものとなるために設置されています。“より良くするための意見” と捉え上手に活用できると良いのではないのでしょうか。

市原市精神保健福祉フェスタ

9月18日(土)
市原市市民会館小ホール

第3回目となった今年は、「誰もが住みやすい街を目指して～もし自分や家族が心の病にかかったら」というテーマ。心の病の回復者や家族からのメッセージでは、病を抱えた当時の葛藤や不安、医療受診の必要性、家族の支えの大きさ(回復者)や、一人で又は家族だけで悩まずとにかく相談してみること、若い人たちに正しい知識を持ってもらい地域の理解を広げたい(家族)といったことが伝えられました。梶原しげる氏の講演では、自分の身近にも心の病を経験した人がいたこと、当時知識がなかったため相手の辛さに気づけなかったことなどを挙げ、正しい知識を持つことの大切さを話されました。このほか、中・高校生・関係者有志によるブラスバンドの演奏・コーラスの披露や作品展示もあり、400名超の方が参加された充実したフェスタでした。

心の病への誤解や偏見は根強いのが現実ですが誰もが罹りうる病気です。ぜひ、正しい知識を!

市原市福祉まつり

11月28日(日)
市原市勤労会館youホール

市原市の主催、市原市心身障害者福祉団体連絡協議会の共催で市原市福祉まつりが開催されました。当日はあいにくの強風でしたが、屋外には多くの障がい当事者団体・家族会・施設がバザーや模擬店を出店し、訪れた人たちは製品を興味深そうに見たり、おいしそうな匂いに釣られ空腹を満たしていました。また、ホール内では、障がい者作品展やふれあい演芸大会、マッサージコーナーなど、日頃の成果が発表され、演芸大会の会場は立ち見が出るほどの盛況振りでした。

主催者と参加者が一体となって盛り上げた「市原市福祉まつり」は、今回で28回。こうした活動が継続的に行われることで障がい者への理解が深まっていくのではないかと感じられた一日でした。



第10回地域生活支援フォーラム千葉

～千葉県の障害者福祉この10年を振り返ってこれからの展望する～

11月20日(土)
千葉県労働者福祉センター

平成13年に第1回が開催され10回の節目となった今回のフォーラムは、「千葉県の障害者福祉の10年を振り返ってこれからの展望する」をテーマに行政、福祉、教育の関係者、当事者合わせて約150名の参加者が集い行われました。支援費制度により措置から契約へ、そして自立支援法と絶え間なく動いてきたこの10年。第1部と第2部では、支援者と家族が登壇しそれぞれの立場から振り返りました。支援者からは自分でサービスを選べるようになり、施設から地域へという政策によりホームヘルプサービスやグループホームなどの利用で地域生活が進んでいく半面、権利擁護といった課題も出てきたこと。家族からは、それまで障害者の支援は「家族が看るもの」が当たり前だったが、「家族でも休んでいい」というレスパイトサービスの誕生は大きな出来事であったという話が出ました。第3部では、これからの10年に向け支援者、家族の立場から期待することやキーとなる考え方が熱を込めて語られました。権利擁護、世帯全体を捉えるトータルケアマネジメント、医療、地域での暮らし、自立支援協議会、そして日本の経済政策や福祉政策…誰もが安心して暮らせる地域社会のために、マクロの視点とミクロの視点を持ちながら、私達が考え行っていかなければならないことがまだまだあるのだと心新たにしたフォーラムでした。





旬の食材を使ったヘルシーメニュー

風邪予防に

手作りさつま焼き

(1人分：115kcal)

材料(4人分)…白身魚のすり身240g、むき海老40g、人参10g、茹で銀杏5g、料理酒8cc、
塩1.6g、卵白12g、サラダ油大さじ1
《付け合わせ》大根120g、大葉4枚

- 作り方…①人参は千切りにし下茹で。むき海老は酒を入れたお湯で下茹でする。
②白身魚のすり身と①と茹で銀杏、料理酒、塩、卵白をボウルに入れ、よく練る。
③サラダ油を手に付け、②をハンバーグのように成形する。
④約175℃で15分ほど焼き、付け合わせに大葉とすりおろした大根を添える。

栄養士さんからのおすすめの一言・・・

「銀杏は、脂質、糖質、たんぱく質、ビタミンA・B群、ビタミンC、鉄、カリウムなどを含みます。滋養強壮、膀胱や肺を温める働きがあり、頻尿の改善、咳止めなどに効果があると言われています。ただ、一度にたくさん食べると消化不良をおこすので、食べ過ぎないようにしましょう。」

今回のレシピは介護老人保健施設ユー・アイ久楽部 栄養士の佐倉様にいただきました。



シリーズ「グループホームで暮らそう！」③

グループホームやケアホームの疑問を
Q & Aで解説していきます。

- Q. 就労している人しか入居出来ないの？
A. たしかに就労している人は多いですが、そんなことはありません。就労している人の場合、企業での一般就労、作業所での福祉的就労など形態は人によって違います。また、就労するための訓練に通っている人、日常生活の訓練に通っている人もいます。
費用の面で、障害年金のほかに収入があると暮らしやすいとは言えるかもしれませんが、ホームの見学やもっと生活の様子を詳しく知りたいという方は、お気軽にご連絡ください。
(連絡先：いちほら福祉ネット内 障害者グループホーム等支援ワーカー 荒原 寛治まで)

いちほら福祉ネットへの相談件数

平成22年6月～9月

延相談件数 **2,388件** (新規84件)

相談方法 対象者

電話	1,755件	高齢者	190人
訪問	453件	障害者	1,721人
来所	180件	児童	40人
		その他	437人

平成22年度(4月～9月)

延相談件数 **3,364件**

編集後記

この時期になると、クリスマスのイルミネーションを見ながら「1年経つのは早いなあ」と口癖のように言っている気がします。はーと通信は今年から年3回となり、お届けできた情報が少なかったかと思います。編集長としては少々物足りなさを感じているのが本音…。来年は何を伝えようかと今から考え中です。これからも皆さんに役立つ情報をお届けできるように頑張りますので、よろしくお願いたします。(ね)